

令和7年度 風の子保育園 保育所サービス評価 総評

① 職員の専門性と意識の向上

今年度は、発達支援制度を利用している子どもや、配慮が必要な子どもが例年以上に多く、クラスの枠を超えた連携が必要だった。会議や研修、対話を通じて保育に対する思いを共有し、外部講師を招いての職員研修を2回実施した。そのため、職員が同じ方向性を向いて保育に取り組んでいるという評価が得られた一方で、子どもの主体性を育むために「今何が必要か」改めて検討する必要性を感じている。より多くの職員が発達への理解を深め、保育の専門性を高めるとともに、根拠に基づいた保育を実践できるように研修を進めていくことが今後の課題である。

② 環境整備と安全確保

集団の規模や、支援や配慮が必要な子どもの増加に伴い、現場の工夫だけでは環境整備が不十分であるという意見があった。地域の子どもたちの受け入れを進めると同時に、安全に保育環境をいかに確保するか検討したい。

③ 地域交流と子育ての拠点としての役割

穴太廃寺跡広場で近隣保育園の園児と遊ぶなど、交流の機会を多く持つことができた。今後も地域の財産を有効に活用し、他団体とも連携を図り、つどいの広場「ありんこ」を含め、当園が地域の子育て拠点としての役割を果たし、就学前の子どもたちや父母が気軽に立ち寄れる場所でありたいと考える。

④ 入園希望者、待機児への対応

今年度も待機児が多く、園見学・入所希望者が増加傾向にある。唐崎学区だけでなく、下阪本・坂本学区が人口増に伴い学区外からの園児も増加している。また、障害のある子どもや発達支援が必要とする子どもの入所希望者も多く寄せられている。今後も職員全員が共通の意識を持ち、子どもも父母も職員も共に育つ保育を目指し、尽力したい。